19950623
[9502]
総22号
発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

防災映画上映会

『大地震そのときあなたは』と愉快なアニメ映画

７月９日(日) １０時～１１時３０分　桂坂小学校体育館

主催　桂坂自主防災会・西京消防署
協賛　桂坂自治連合会・山の手倶楽部・女性会

ここのところ近畿の各自治体では、阪神大震災の教訓を生かすため従来の「防災計画」の見直しが行われています。

大阪で一三日「震度７の直下型地震を想定した内容に改め近隣府県との応援体制の緊密化をはかる」方針が確認されたのをはじめ、京都でも同日、防災会議が開かれ「短期・中期・長期の三段階に分け」て「市地域防災計画」が作成されることになりました。

短期の対策では「初動体制の強化に向け市職員の配置体制を明確にする」ほか「避難計画の整備」「備蓄の整備」などが挙げられ、従来「任意避難地域」でしかなかった洛西地区などを「広域避難地域」に指定して、避難場所の候補地として挙げられた「学校の校庭や公園など」では「安全調査」が行われます。

九月一日の「防災の日」には南区で総合防災訓練が実施され、「初めて都市直下型の巨大地震を想定、自衛隊が二七年ぶりに参加する」そうです。

いづれ上の方から、策定された「防災計画」が下りて来るでしょうが、この桂坂の実地に即した有効な防災「対策」はここに住む私たち住民が知恵を集めて考えるべきことかも知れません。

自然の猛威のもたらす不測の事態に備えるには、普段から私たちの方で充分な対策を講じるとともに、生活者のレベルから「事態」を見て考える習慣を付けておく必要がありましょう。

「日赤社資」募集実績のご報告

赤十字奉仕団
「桂坂」分団長
田畑　昭三

この平成七年度も、桂坂学区一斉に「赤十字社員増強運動」を行いましたところ、各自治会の皆様方のご協力を得て、お寄せいただいた「社資」や寄付金は、目標額を大きく超えて、二〇七％近い実績を上げることができました。心より感謝申し上げます。

また、お力添え賜った関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

平成七年度目標額
四二二、六〇〇円
平成七年度実績額
八七五、六二四円

内訳：
●かえで自治会
一四六、一〇〇円
●さつき自治会
一一五、三五〇円
●しらかば自治会
九〇、三〇〇円
●はなみずき自治会
一〇九、七〇〇円
●あかしあ自治会
七六、三〇〇円
●ぽぷら自治会
九六、〇七四円
●けやき自治会
五五、九〇〇円
●ひいらぎ自治会
九七、四〇〇円
●つばき自治会
八八、五〇〇円
合計
八七五、六二四円

振り返りつつ女性会の将来を

桂坂女性会　会長
安楽つねみ

平成六年五月十四日発足いたしました桂坂女性会も無事一年を迎え、本年五月二十二日、ふれあい会館において総会を終えました。

新しく「けやき自治会」の十三名の入会を得、会員百八十名の大家族となり七年度の諸行事に取りかかっております。初年度は会員の確保に始まり、幅広い年齢層の会員で、中にはお仕事を持って居る人、子育て中の人、全員の対処など、役員十二名が打ち解け合って知慧を絞ってまいりました。お蔭様で何とか女性会らしい土台も造り得たように思います。それも全会員の協力があったればこそと感謝いたしております。

「三余」の説というのがあります。

一、冬は春夏秋の季の余り、ゆっくり休むべし。
一、夜は昼の時の余り、ゆっくり憩うべし。
一、雨の日は晴れの日の余り、心静めるべし。

正確な表現はこのようなことではないのでしょうが、主旨は右のようなことらしく「余り」といっているが、それがとても大切だからこそつけ加えたというのです。

全く関係のないことですが、私は「三余」の「三」を拝借して、ふと「三感」ということを思いました。

一、感動をいつも心に
一、感性をいつも磨いて
一、感謝をいつも忘れず

女性としてはとても大切なことと思います。会員が横のつながりを広め、明るく知的に活動をし、共に相手を尊重しあい、感謝の心を社会に還元できるような女性会に発展して行ければと思います。

私の好きな言葉に「無財の七施」がありますが、この禅の言葉をいつも思い出して居ます。

「捨身施」・「心慮施」・「和顔施」・「愛語施」・「床座施」・「房余施」・「慈眼施」すべてがボランティアに通じます。女性会も桂坂らしい文化の向上に寄与しながら、どこへ出ましても恥づかしくない独特のカラーをつくりつつボランティアにも貢献していければと思って居ります。

徳は身を潤すと申しますが、何か人のためにやってあげるのも大切なことで、この一年健康に皆様と歩んで行きたいと思って居ります。

文化

花の木ラウンジ

七～八月の催し

『野鳥の写真』展
中村　善夫氏

中村氏は写真家・京都野鳥の会の副会長さん。

❖

女性会主催　講演会

福祉の視点

講師　森田久男氏
場所　ふれあい会館
1階　研修室
日時　六月二六日(月)
午前一〇時～一二時

森田氏は、「ふれあい会館」の館長さん。

老人福祉をはじめ様々な面で「福祉」が叫ばれるこの頃です。女性会の方も、皆さまがたのご来聴を望んでおられます。

保健協議会より

・空缶、空瓶収拾を紙袋で出される方があります。収拾時に破れますので破れない袋でお願い致します。

・献血
七月六日（木）
十時より三時まで

・市民検診
七月十四日（金）
一時半より三時半まで

いずれも桂坂小学校にて

■暴走族の抗争事件■

桂坂の住環境は私たちの手で

さる五月二六日の未明のことです。ロータリー付近で、暴走族同士の抗争事件が発生しました。

多くの負傷者が出たばかりか、なにしろ未明のことで、近所の方には朝の静穏をぶち破って、しかも大きな不安を与えるという大変な迷惑をかけたようです。

今回のことで桂署は、パトロールの強化を計るなど今後とも充分警戒をしていくということです。

かつて洛西ニュータウンが建設中だったころ、やはり暴走族の格好の溜り場となり、週末には決まって幾つものグループが出没しては、バス道路や未使用の閉鎖中の道路を我が物顔に走り回りました。深夜に爆音を轟かせる悪質な示威行為や公共物の壁にペンキで落書きするなどの不法行為が相次ぎました。

先日（六月一八日の、これも未明）大阪の豊中市で「暴走族のバイクの騒音」を注意した人が約二〇人の暴走族に襲われ、「無差別リンチ同然の集団暴行」で殺されました。

この事件について評論家の赤塚行雄氏が、「暴走族の一人ひとりは社会的に疎外された弱い存在。集団で走るしかアイデンティティを確認できない連中で、今の社会からいなくなることはない」といったコメントを某紙に寄せていますが、ましてやこの桂坂の場合、東部と西の一部がなお建設途上にあるのですから、暴走族の跳梁とそれにともなう事件の発生は今後とも充分に予測できます。

先日、回覧板を通し、桂坂学区の自治連合会、防犯推進委員協議会など連名で「暴走族の排除と防犯体制の強化」について概ね次のように呼びかけ、ご協力をお願いいしました。

■暴走族の不法行為はもちろん、その他の不審に思えることはすぐに一一〇番をお願いします。

■夜も照明の明るい街づくりで、「不法」の進入を許さないよう努めましょう。

桂坂の住環境は、私たちで協力しあって守りたいものです。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。